



NPO法人 コドモノナリ

～子ども食堂『奏ロケット』を活用した地域活性化、子ども達の社会活動支援～



目次

- 1 NPO法人コドモノナリについて
- 2 VISIONとMISSION
- 3 私たちの取り組むSDGs活動①と②
- 4 横浜市の子どもを取り巻く環境データ
 - ①横浜市不登校児童件数
 - ②ネグレクト、虐待についての相談件数の推移
 - ③現在の横浜市全体の貧困児童の推移
- 5 私達の課題
- 6 協働支援の実例
- 7 私達の今後の目標
- 8 さいごに…

他 補足資料



NPO法人 コドモノトナリについて



学童保育APどろんここぶた



HEROs DREAM
アスリート交流会



子ども食堂 奏ロケット

活動拠点所在地	JR横浜線 『鴨居駅』徒歩7分 神奈川県横浜市都筑区池辺町4328
主な事業内容	一時預かり保育 認可外保育園施設 学童保育・フリースクール 小学生・中学生 子ども第三の居場所事業(令和3年12月24日開所) 子ども食堂『奏ロケット』
従業員数	4名(うち保育士 2名 養護教諭 1名 理事兼調理師1名)
令和3年事業収支	当期収入 事業収入 562万円 運営管理費 1432万円(うち人件費678万円) 事業損益 ▲870万円
主な資産	送迎車、賃貸物件を教室/食堂に改装 自動車(+55万) ・建物(当期+2676万)

VISIONとMISSION

VISION 目指している姿

垣根を外して認め合い笑い合えるみんなの居場所を作り、親と子、地域の人々の絆を取り戻す。



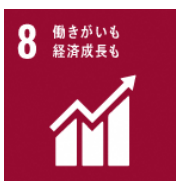
MISSION 私達の役割

人々の絆や繋がりを取り戻すために、生き辛さを感じている子ども達や、子育て・生活に困難を感じている大人達など、誰もが集える居場所を作り、一人でも多くの笑顔を増やすこと。そして、自分たちで未来を創るという希望や夢を持つ子ども達の心を育んでいきます。



私達の取り組むSDGs ①

パパママのためのお話会&お勉強会



目的

子どもの豊かな成長にはママやパパが心身ともに元気であることが必要だと感じています。昼間空いている子ども食堂スペースを活用し、地域のママ達の交流の場、また様々な段階の子ども達について学ぶ機会を作り、広げることが目的としています。

実施内容

各段階の子どもの心・脳・発達をテーマにした講義
大人の絵本お茶会の開催
食育をテーマにしたお話会の開催

生まれた変化

コロナ禍の影響で孤立化が深刻な子育て中のママ達の息抜き
の場が作れて、皆様からリアルな悩みや感謝のお声をいただ
いています。保護者の皆様のニーズを知ったこと、深い悩みまで個
別にお話をしてくださるようになったことが、大きな成果です。

子ども食堂 奏ロケット



目的

貧困だけでなく、様々な困難な状況にある子ども達を支援することを目的に、行政や社会協議会、自治体、教育委員会、近隣小中学校と連携し居場所として発足しています。NPO法人コードモトナリは神奈川県初の『子ども第三の居場所事業コミュニティモデル』として日本財団より採択され、横浜市と協定を結び『奏ロケット』を開所しています。

実施内容

子ども食堂スペース開放、食事提供、学習支援(週3回 16-19時)
地域の多世代交流の促進
フードドライブ

生まれた変化

近隣小中学校で全校配布していただくなどして、居場所の認知浸透を図れています。また先生方、北部教育委員会等、様々な機関の方たちと子ども達の情報共有が出来るようになりました。

私達の取り組むSDGs ②

APD子ども社長塾



子ども社長塾YOUTUBE

4 質の高い教育をみんなに



目的

子ども達が主体となって、様々な企業への社会貢献、SDGsの取り組みについて学ぶ機会を提供しています。これからの日本を担っていく子ども達が今から環境や経済的課題について知る機会を設けることで長期的な課題の解決に貢献できると考えています。

実施内容

工場見学
ビジネステーマに沿った講義(月1回/全12回)
市場・環境調査

生まれた変化

商品開発や市場調査を行っていくうちに子ども達の柔軟な発想に驚かされる場面が何度もありました。また様々な企業について知ることでその感覚がより明確にビジネス感覚を成長させています。

フリースペース



5 ジェンダー平等を実現しよう



11 住み続けられるまちづくりを



目的

NPO法人コードモトナリの学童保育APどろんここぶたが運営している、小中学生が安心してすごせる居場所です。学校に行くのが辛かったり、通う意味が見いだせなくなってしまった時に子ども達が安心できる場所を提供しています。

実施内容

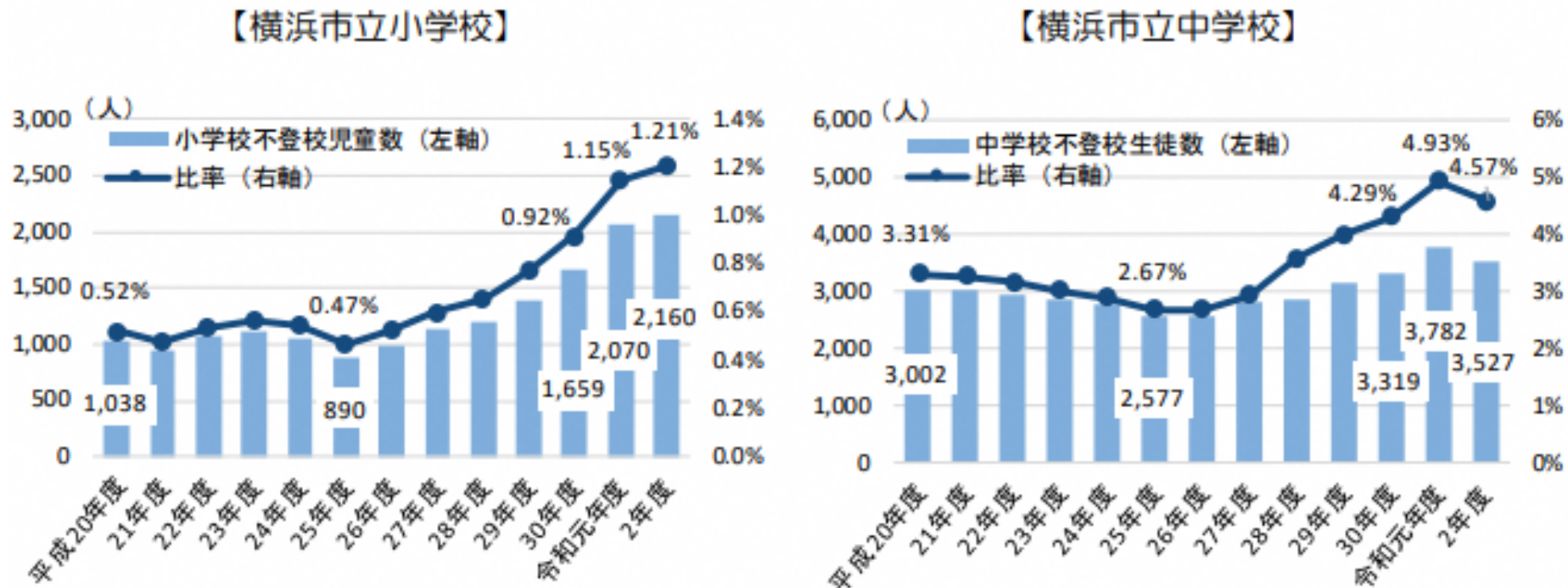
子ども達がしたい事、好きな事を最優先しています。職場体験・楽器演奏、プログラミング、イラスト、ダンス等様々なプログラムを用意しています。

生まれた変化

ソーシャルワーカーや社会協議会の方から当法人のフリースペースを子ども達やその保護者にお勧めしていただけるようになり、少しずつ小学生の利用が増えています。

横浜市立の不登校児童件数(小・中学校)

図表 31 不登校の状況

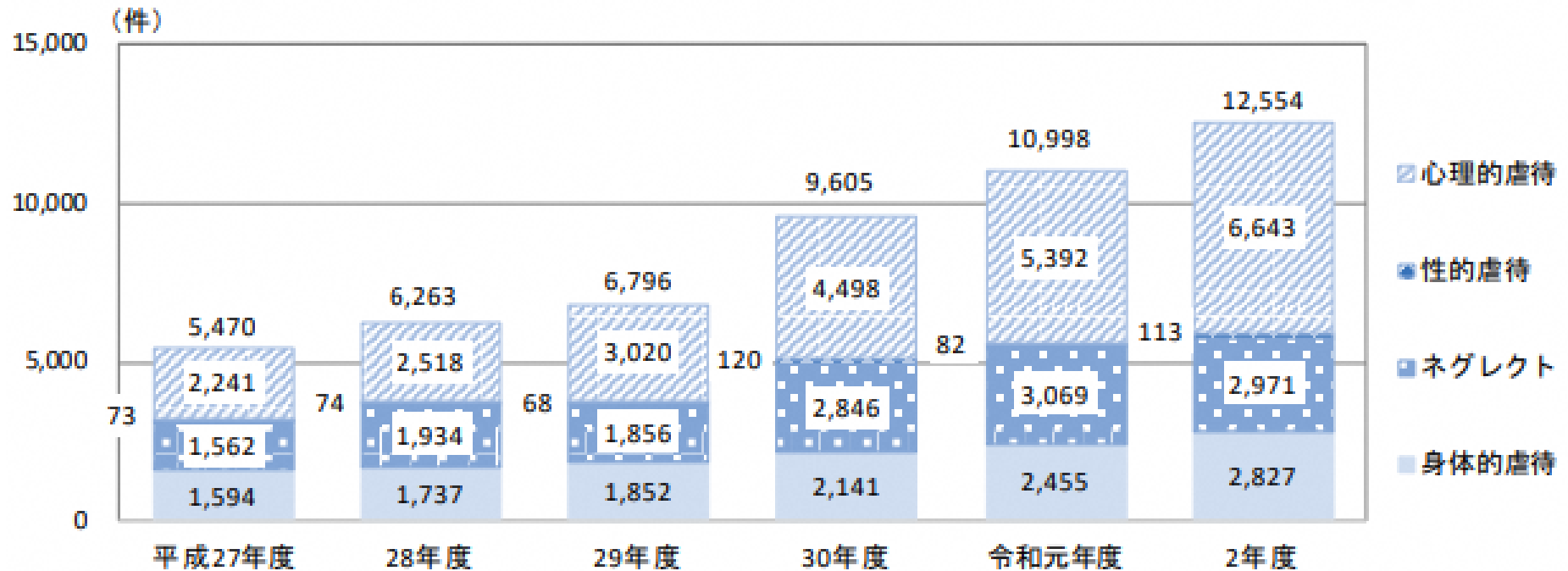


参考:横浜市民アンケート結果 横浜市役所HP
[0151_20220420.pdf \(yokohama.lg.jp\)](https://www.yokohama.lg.jp/0151_20220420.pdf)

平成 20 年度から令和2年度では不登校児童数は約2.1 倍に増加。市立中学校の不登校生徒数は、平成 20 年度から令和2年度で約 1.2 倍に増加し、市立中学校の生徒全体に占める割合は 4.57% となっています。

ネグレクト、虐待についての相談件数の推移

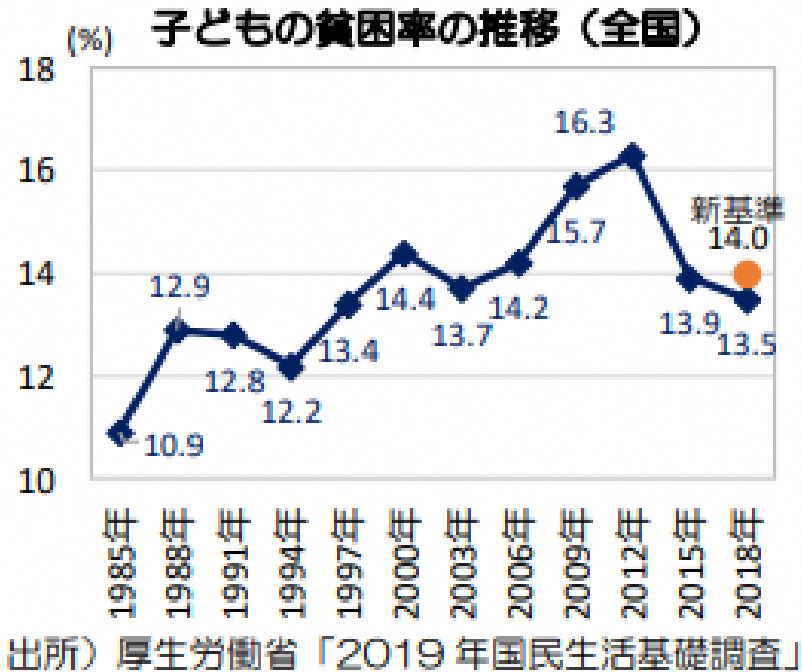
図表 28 児童虐待相談対応件数の推移



参考:横浜市民アンケート結果 横浜市役所HP
[0151 20220420.pdf \(yokohama.lg.jp\)](https://www.yokohama.lg.jp/0151/20220420.pdf)

平成27年度から比べると2.3倍ほど児童虐待(疑いを含む)件数は増加傾向となります。

現在の横浜市全体の貧困児童の割合、推移



図表 1 国の貧困線を下回る世帯で生活する子ども等の割合

指標	今回調査(令和2年度)		【参考】 前回調査(平成27年度)	
	令和元年所得		平成26年所得	
世帯に含まれる子どものうち、 貧困線を下回る世帯で 生活する子どもの割合	5歳児	6.1%	0~24歳 未満の 子ども	7.7%
	小学5年生	7.8%		
	中学2年生	6.9%		
	調査対象全体	6.9%		
子どもがいる現役世帯のうち、 ひとり親世帯に含まれる世帯員の中で、 貧困線を下回る世帯で生活する方の割合	5歳児	38.6%	45.6%	
	小学5年生	39.2%		
	中学2年生	28.2%		
	調査対象全体	35.3%		

参考:横浜市市民アンケート結果 横浜市役所HP
[0151_20220420.pdf \(yokohama.lg.jp\)](https://www.yokohama.lg.jp/0151_20220420.pdf)

2015年時点の全国の貧困率の推移は13.5%、横浜市では半分ほどの7.7%でしたが、横浜市の人口にあてはめると約4万4000人程度の子どもの貧困状況となります。またその中でも一人親世帯では貧困率は45.6%と半数近くとなります。

私達の課題



運営資金が足りず、需要は高いが存続が難しい
子ども食堂に対するマイナスイメージ
スタッフやボランティアのスキルアップ体制の構築
企業の方々との共同支援の輪を広げたい



私達が支援してほしいこと



寄附金・支援金

いただいたご寄附で以下の活動が実現できます。

1,000円の寄附…子ども3人分の食事提供。

5,000円の寄附…子ども食堂1回開所。

10,000円分の寄附…近隣地域に子ども食堂を知ってもらう広報活動、無料イベント開催。

工場見学・企業紹介イベント等

「こんな大人になりたい！」と憧れるきっかけや、夢を見つけるヒントとなるような、社会で活躍する皆様のリアルな声を、セミナーや会社・工場見学などを通して子ども達に聞かせていただきたいです。また企業様の特化したスキルや得意分野を活かし、子ども達に様々な体験を提供していただきたいです。

食材・消耗品・遊具、化粧品などの寄附

こだわりの食材やトイレットペーパーやハンドソープなどの消耗品の支援。

ボランティア

私達の活動をSNSやHPと一緒に広めたり、子ども食堂や学童保育、各種イベントでお手伝いをしていただくと幸いです。

これまでの協働事例



染野屋半次郎様より、ゆば豆腐や厚揚げ、がんもなどの
こだわりの大豆製品のご支援



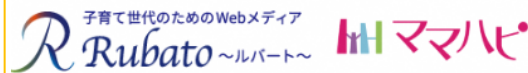
(株)Wood bridge様から『英語で世界を飛び回ろう』イベント
横浜夢ファンドへの支援金の寄付、遊具や備品などの支援



餃子の王将様からの
餃子弁当の支援



SONY様より感動体験プログラム、プログラミングキットの寄付



Rubato様からのフードドライブで
集まった食料品や備品の寄付



あるといいなが
あるところ。

まちだの丘病院 訪問看護ステーションのヨリドコ小野路宿様より
年に2回子ども達の遠足企画、施設の利用、サツマイモ堀や竹灯籠づく
り、羊毛狩りなど様々ワークショップ体験をさせていただいています

私たちの目指し方

持続的な活動のために、私たちは今後、5つの目標に取り組みます



子ども達にとって家や学校以外のほっとする第三の居場所として広報活動

子ども達の豊富なアイデアを引き出し、SDGs目標のそれぞれの課題について当たり前に考えるように導く

地域で子どもから高齢者までお互いに見守る多様性のある環境づくり

行政、教育機関、地域、親との情報交換を密に行い、子どもの健全な成長を促す伴奏支援

認証NPO法人、グッドガバナンスの取得。

皆さまとの伴奏支援で2030年のビジョンに近づくことができます。是非応援お願いします。

理事長の想い

私達は10年以上前から地域の子ども達と関わってきました。両親が共働きで夜遅くまで帰らず、下の子の世話をさせる為に学童に通わせる余裕も無いご家庭や、不登校で夜も自宅に帰らずに行き場の無くなった女子高生。父親のDVで離婚し母子家庭で育てられ、家庭内暴力が止められなくなった小学生など、色々な子と出会いました。当時、私達ができたことは話を聴くことと、居場所や食事を一時しのぎに提供するだけでした。

今ここにきて、ようやく奏ロケットという第三の居場所を作ることができました。そして、子ども達を想い、力になりたいと強く願う大人達とも出会うことができています。日本財団さんをはじめ、プロスポーツ選手の皆様、熱い想いを持った地域の先生や校長先生、そして教育委員会まで繋がりました。これからは、個人の想いだけでは力が足りずに出来なかったことが、実現出来る時だと確信しています。

心を閉じてしまった子ども達が一步を踏み出すためには、安心出来る居場所が必要不可欠です。大人や社会に不信感を持って育つ子は、悲しいけれど少なくはありません。そんなひとりひとりの信頼を取り戻すために、私達は全力で取り組みたいと思っています。

そんな子ども達と繋がるキッカケとして、子どもたちが主役になれるイベントや大人を交えて交流できる場を開催し、時間をかけて地域に浸透させ根付かせていくことが大切だと思っています。お金を出さないと楽しんだり学んだりできない習い事ではなく、誰でも気軽に立ち寄れる居場所になるためには、そのイベントを企画開催するための資金や、協力してくださる企業の方達のアイデアや御協力が必要です。私たちは、大人になることを楽しみにできるような子どもを増やしていきたいと思っています。



理事長 片岡 恵美子



NPO法人コドモノトナリと伴奏支援団体



神奈川フードバンク

神奈川子ども食堂地域食堂ネットワーク

都筑区役所、社会福祉協議会、地域ケア
プラザ、川内町内会、民生委員、

神奈川県議会議員、横浜市議会議員

アイ・スイーツ株式会社



NPO法人 コドモノトナリ



鴨居中学校、中山中学校、都田中学校

北部教育委員会(SSW)

日本財団

横浜市青少年局

こどもみらいフェスティバル実行委員会

通信制サポート校キッカケ学園
中等部・高等部